



# 森の息吹

No.153 1月号  
2019. 1月1日発行  
編集代表：五賀利雄  
0133-26-3738

## あけましておめでとうございます

12月1日(土)今年度の反省会と来年度に向けての意見交換会

参加者 10名

当別町太美スターライト会館にて10名が参加し忘年会を兼ねた意見交換会が開催されました。食事を頂きながら恒例の山崎氏提供のビンゴ大会が行われ、それぞれ好みの賞品を頂戴しました。

山崎さん、ご厚意、本当にありがとうございました。

アルコールも回ってきたところで、次年度以降のシラカンバの活動について熱い話し合いが行われました。また、会長から職を辞したいとの発言があり今後、どうゆう形になるのかなどの意見が聞かれました。

以下、箇条書きになります



- 1 山田山林の整備をこの先の毎年の活動の一つに位置付ける(山田氏に最終確認が必要)

内容 笹刈 刈払い機の笹刈用歯を購入する事

倒木の処理 チェーンソーの扱い方の研修にもなる 現在チェーンソーは2台です

間伐 同じくチェーンソーの研修を兼ねる。 許可が出れば間伐材の利用を検討する

植樹 森を育てる事の意味

活動は継続的に計画的に行われるようにどこまでシラカンバで行うのかなどの計画を立案し山田氏の意見をお聞きし、山田氏との事前の相談やご協力が必要となります。

活動理由としては森をつくる、森を活かす、木を育てるなど森林に役立つ何かをする演習場所として間伐、枝打ち、植樹などのシラカンバの会として本来の活動や研修が出来る事です。

- 2 年間の活動計画では昼食を挟み午後も活動を行う日を増やし遠方からの参加者にも配慮した活動時間とします。

- 3 協働の森の会の定期活動・新山川草木の草刈・コープ未来の森活動などは継続とします。

- 4 若い会員の入会が切望されています。募集案として活動内容や会員募集のチラシを道の駅に置いたり当別だよりに掲載してはなどの意見が聞かれました。

- 5 会長から体力も気力も落ちたので職を辞したいとの発言がありました

総会で話し合いますがご本人の気持ちも大切にしながら良い案があればお願いします



### 1月の活動案内

今年もよろしくお祈いします。

1月の活動はありませんが下記の催しがあります

参加希望者は1月14日までに小笠原氏宛てに連絡をお願いします

1月26日(土) 内容 北海道の森づくり交流会

詳細は同封のパンフレットを参照してください



函館での単身赴任生活が早くも9か月目に突入した。通勤途中、五稜郭公園の中を歩きながら、時々五稜郭の堀を横目で見ながら、明治の初め、函館戦争の舞台であったことに思いを馳せる。五稜郭公園は、ゴールデンウィーク中に、よく手入れされたソメイヨシノの花が満開となり、その美しさは格別である。

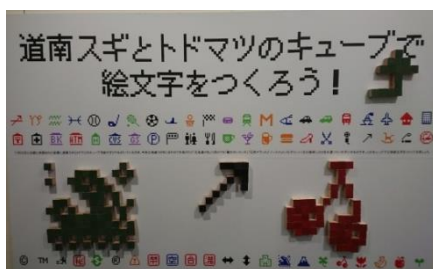
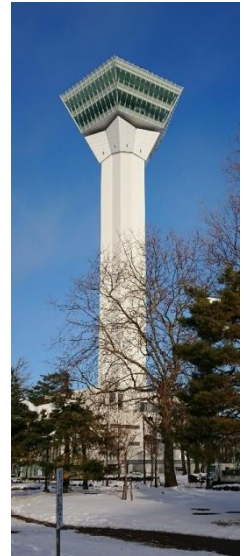
私の勤務場所は、その五稜郭の近くにある美術館である。

11月に次期特別展のプレ・イベントとして「アート×木育」のイベントを行った。その特別展は、NTT DOCOMOが開発した12×12ドットの初期の「絵文字」と美術館の所蔵品を展示するものであるが、渡島総合振興局東部森林室の協力を得て、「絵文字」のドットになぞらえ、45mm角の木のキューブを12×12個（=144個）を3組ご用意いただき、美術館に来館された皆さんに紙やすりで面取りをしていただき、さらにキューブの1面にペンキ塗装していただいた。

木は地元の道南スギとトドマツ、ペンキは塗料会社が今年北海道150年を記念し作成した北海道カラー10色のうち3色を使用。

塗装を乾かした後、キューブの裏面に磁石を貼り、特別展会場の壁面に、観覧者が自由に「絵文字」を作成して遊べるコーナーを設けた。テレビ局の取材も2件ほどあった。このイベントで、渡島総合振興局東部森林室とのつながりができ、また3、4年前と一緒に仕事をさせていただいた木育マイスターの方とも再会できたのは、私にとって大きな収穫であった。

当別から遠く離れた場所で、限られた時間ではあるが、これからもこのような形で木に関わっていきたいと思っている。シラカンバの皆様の御多幸と御健勝を心より御祈念申し上げます。函館に来られる機会がございましたら、ぜひ美術館にもお立ち寄りくださいませ



#### 事務局より

富士ゼロックス様より寄付金10万円を頂いております。

コープ未来の森づくり基金様より会の森づくり活動に対して10万円の助成が決定いたしました。

当別22世紀の森づくり実行委員会様よりサポート協力金として46000円頂いております。皆様、本当にありがとうございました

